

課題

- ① 図書館利用の減少
放課後活動の多様化と閉館時間の制約により、図書館利用が減少している。
- ② 多言語読書環境と資料活用への対応
海外にルーツを持つ生徒の増加に対し、多言語で読書に取り組める環境や専門的資料に触れる機会が十分ではない。
- ③ 社会とつながる文章への接触機会の減少
新聞購読家庭の減少により、社会の動きを伝える実用的な文章に触れる機会が少ない。
- ④ 読書と学力育成の結び付きの弱さ
読書活動が読解力や表現力の育成に十分に生かされていない。

事業のねらい

- ① ICTを活用した読書環境の充実と地域連携の推進
タブレットを活用し、時間や場所にとらわれない読書環境を整えるとともに、図書館を地域に開き、本校から日本文化を発信する拠点とする。
- ② 翻訳機能や外部図書館活用で多言語読書の推進
海外にルーツを持つ生徒が翻訳ツールを活用して読書に取り組める環境を整えるとともに、外部図書館のデジタル資料や併設大学図書館を活用し、多様で専門的な資料に触れる機会を広げる。
- ③ 社会とつながる読書活動の推進
デジタル新聞記事を活用し、社会の動きを読み取る読書活動を推進する。
- ④ 読書を通じた言語能力の育成
読書活動を読解力や表現力の向上につなげる。

取組実施地域・学校の指定

神戸山手グローバル
中学校高等学校



実施内容

①朝の読書 シェア図書館（日本文化体験・発信）



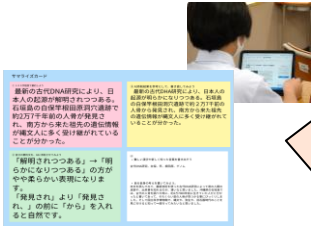
各自のタブレットで青空文庫等の電子書籍を読む。海外ルーツ生は翻訳アプリを活用し日本語作品を読み、日本人生徒は英語作品にも触れる。あわせて図書館を地域の交流の場とする「シェア図書館」を年6回実施し、本校から日本文化を発信する拠点とした。

②大阪市立中央図書館デジタル書籍利用・見学 併設大学図書館ツアー



大阪市立中央図書館のデジタル書籍を利用するとともに、併設大学図書館ツアーを実施した。希望者による中央図書館見学も行い、言語の壁を越えて多様で専門的な資料に触れる機会を広げた。

③サマライズタイム



毎日新聞のアプリを活用し、学年に応じたデジタル新聞記事を読み要約する。本校独自の「サマライズタイム」として定期的実施し、生成AIによる添削で自分の要約の課題を確認する。継続的な活動を通して、社会への関心を高めるとともに、読解力と要約力の向上を図った。

④校内読書感想文コンクール 全校ビブリオバトル大会

読書感想文コンクールと全校ビブリオバトルを実施。海外ルーツ生も日本語で発表し、優秀作品は兵庫県コンクールへ出品、優秀者は外部ビブリオバトルに参加する。



成果

○アントレプレナーシップ・プログラム 高校生Ring(リクルート)セミファイナリスト



高校1・2年生が応募したリクルート高校生リング2025において、全国167校34,206人の応募の中から、本校生1組が30組の**セミファイナリスト**に選出された。また「半径5mの問い100選」では**3組が入賞**した。サマライズタイムによる要約力の向上や、読書活動を通じた表現力の育成が、探究活動の成果として表れている。

○第53回 兵庫県私立学校読書感想文コンクール入選 全校ビブリオバトル大会

読書感想文コンクールでは、**中学3名、高校2名が入選**し、高校1名が佳作。全校ビブリオバトルでは、**中学で最優秀賞1名・優秀賞1名、高校で最優秀賞3名・優秀賞2名**を輩出。高校最優秀賞者の内2名は海外ルーツ生であり、多様な背景を持つ生徒が日本語で読書活動に取り組む成果が見られた。



○海外生の日本語レベル向上(2025年度)

	N4以下	N3	N2	N1
4月	88%	10%	2%	0%
7月	55%	22%	19%	3%

○本校図書館情報

蔵書数昨対 約26%増 現在約88,000冊
2025年度貸出冊数 11%増
シェア図書館開催回数 6回